

第9節 外国語

第1 本指導実践事例集の活用について

1 作成の基本的な考え方

中学校学習指導要領の外国語の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」ことである。この目標を達成するために、小学校の外国語活動で育まれた素地をもとに、平成24年度から全面実施となる中学校学習指導要領で増加した授業時数（各学年とも年間105時間から140時間）や指導する語数（「900語程度まで」から「1200語程度」）などを活用し、豊かな言語活動を通して4技能を総合的に育成していくことが大切である。本事例集では、各学校で実践されている優れた実践事例や指導方法を、平成23年度埼玉県中学校教育課程研究協議会における二つの研究協議題を柱として収集、分類、提示している。全县をあげて研究協議した研修内容を、この事例集を活用することでさらに深化させ、日々の学習指導の充実に資することをねらいとしている。

2 取り上げた内容

下記① ②の研究協議題ごとに、次の事例を取り上げている。

① 言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実するための指導と評価の在り方			
番号	実践事例	学年	内容
1	誰もが取り組みやすい英作文活動 ～「書く」から「話す」につなげるために～	2年	「書くこと」と「話すこと」の言語活動を関連させて指導することで「外国語表現の能力」を育成する取組
2	ICTを使って、話したくなる・書きたくなる表現活動	全学年	どの学習内容にどのようなICTの活用方法が効果的であるのかという実践に関する取組
② 体験的・問題解決的な学習を重視するとともに、生徒の自主的、自発的な学習を促すための指導と評価の在り方			
番号	実践事例	学年	内容
3	小中連携のための事例 ～生徒にやる気をもたせる入門期の指導の工夫～	小6年 1年	中学校教師の小学校での出前授業や中1の入門期の授業に小学校外国語活動の既習事項を活用する等の小中連携に関する取組
4	効果的な語彙指導の事例 ～使える単語はこう増やす！～	全学年	語彙を身に付けさせるための指導や単語テストの工夫及び語彙指導を言語活動に結び付ける指導方法等の取組
5	教科書を生かす ～活用の工夫で教科書が「生きて」くる！～	2年	教科書を生かし、個人やグループ等の様々な学習形態を活用し、発音指導、内容理解、音読指導等を通して生徒の主体的な学習を促す取組
6	伝えよう 日本文化！ ～こんなとこいいね 日本！～	3年	「日本文化を紹介すること」をテーマとして、「多読」「多聴」のインプット活動を「話すこと」と「書くこと」のアウトプット活動につなげることで4技能を総合的に育成する取組

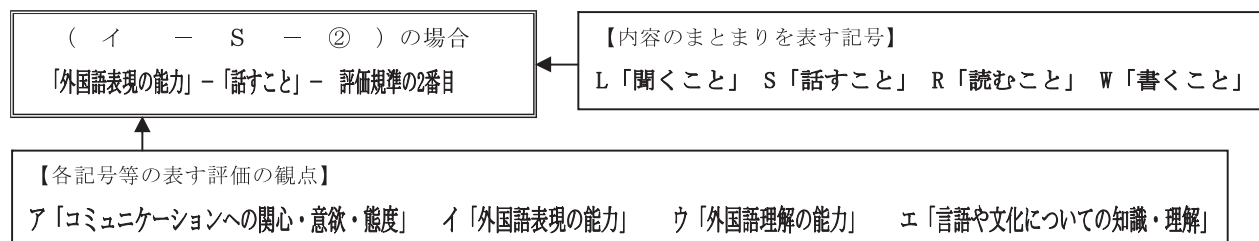
3 活用に当たっての配慮事項

(1) 指導と評価の一体化について

本資料では、各事例に関して紙幅の許す限りではあるが、指導計画（Plan）、展開例（Do）、評価（Check）を一連の流れで示している。本事例集を参考にした学習指導に当たっては、評価方法・評価規準を活用して生徒の達成度を把握し、その結果を次の指導（Action）に生かすPDCAサイクルの中で、指導と評価の一体化が図られるように配慮することが望ましい。

(2) 「評価上の留意点」における記号等について

各実践事例に使われている「評価上の留意点」の記号等は、以下の内容を表す。



また、展開例においては、○は「学習活動」、◇は「学習内容」を表す。

第2 実践事例

事例1 誰もが取り組みやすい英作文活動～「書く」から「話す」につなげるために～

1 ねらい

言語に関する能力の育成を図る上で、4技能を統合的かつ段階的に育成していくことは重要である。ここでは自分の宝物について英語で説明することを目標とした指導と評価の事例を紹介する。他者の宝物について「聞くこと」「読むこと」を通じた理解から、自分の宝物について「書くこと」「話すこと」の表現にスムーズにつなげる英作文活動を通して4技能の育成を目指す。

2 指導計画

時間	○学習活動 ・ ◇学習内容	・指導上の留意点	評価上の留意点
第1時 (50分)	○JTEの質問とそれに対するALTの答えを聞く。内容に関するQ&Aを行う。 ○ALTの宝物紹介の原稿を読み、内容理解を深める。 ◇ALTの宝物紹介 ○ALTの原稿を参考に、自分の宝物紹介の原稿を書く。(指定の言語材料“○○ gave me this.”を1文入れることを条件とする。) ◇自分の宝物紹介の原稿作成	・ALTは宝物の実物を用意し、ジェスチャーなどを加え内容理解を促進する。 ・モデルとなる文章を読むことで、文章構成のイメージをもたせる。 ・始めはできるだけたくさんの紹介文を書き、表現の量を増やすようにする。	○活動の観察 内容に関する質問に対して簡単な言葉で答えることができる。 (ウーLー①)
第2時 (50分のうちの30分)	○前時では文量を多くするようにしたが、構成を考え20秒以内でスピーチできるようにまとめる。スピーチの練習をする。 ◇スピーチ原稿の修正	・指定の言語材料を1文入れながら、伝えたい事をまとめるよう助言をする。	○ワークシートの分析 正しい語法を用いてまとめた文章を書くことができる。(イーWー①) (エーWー①)
第3時 (50分のうちの30分)	○スピーチの評価基準の説明と具体例を聞く。 ○ペアで互いにスピーチを聞き合い、さらにスピーチの内容についてのQ&Aの練習をする。 ○JTEの前でリハーサルを行う。アドバイスを受け、さらに練習をする。 ◇スピーチの練習、リハーサル	・宝物の実物や写真を用いる条件や、評価方法を具体的に説明する。 ・暗記が目的ではなく、聞き手に内容が正しく伝わることを意識したスピーチになるよう、話し方の指導をする。	
第4時 (50分)	○宝物紹介をし、教師の質問に答える。 さらに説明を加えたり、話題をふくらませたりする。 ○終わった生徒は、まとめのワークシートに言いたかったのに言えなかった表現を書き出す。また他の生徒の練習を手伝う。 ◇コミュニケーションテスト	・テスト時間は生徒一人当たり1分(20秒以内で宝物紹介、残り40秒で宝物に関するQ&Aを行う。) ・ALTとJTEのグループに分かれ、同時にテストを行う。	○間違ふことを恐れず宝物について話したり質問に答えている。 (アースー①、②) (イーSー②) (ウーLー②)
第5時 (5分)	コミュニケーションテスト評価用紙の返却		

3 評価の観点・評価規準等

評価の観点	内容のまとめりと本課(単元等)の評価規準		評価方法
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	S	①間違ふことを恐れず積極的に自分の考えを伝えようとしている。	・コミュニケーションテスト
	S	②知っている語句や表現を用いて話し続けようとしている。	
イ 外国語表現の能力	W	①まとまりのある文章を書くことができる。	・ワークシートの分析
	S	②語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく話すことができる。	・コミュニケーションテスト
ウ 外国語理解の能力	L	①ALTの宝物紹介を聞き、概要をとらえることができる。	・Q&A
	L	②コミュニケーションテストにおけるALTまたはJTEからの質問を正しく聞き取ることができる。	・活動の観察 ・コミュニケーションテスト
エ 言語や文化についての知識・理解	W	①正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。	・ワークシートの分析

4 ねらいを実現させるための手立て・工夫等

- A L Tが宝物を紹介する原稿を読ませることでモデルとなる文章にふれさせ、生徒に自分の宝物紹介を書きやすくさせる。
- 書く活動において、英語が苦手な生徒でも取り組みやすいように「使える表現集」を示す。生徒は伝えたい表現などを選んで書けばよいので、「書くこと」の活動の支援となる。
- コミュニケーションテストにおいて、教師との会話がスムーズにできるよう、普段の授業から継続的に会話練習を行うようにする。

5 指導と評価の展開例 (2 指導計画参照)

6 資料

English Drill [2学年バージョン]

☆普段の授業で帯活動として会話練習を行うことで、テストでもスムーズなやりとりができるようになる。

- (1) Did you play ()? Yes, I did. / No, I didn't.
- (2) Are you a good () player? Yes, I am. / No, I'm not.
- (3) Who is your favorite ()? () is.
- (4) What () do you like? I like () .
- (5) What country do you want to visit?
I want to visit () .

《A L Tの宝物についてのスピーチ原稿》

オーロラ先生の宝物についての英文を読もう



My treasure is a lovespoon. It has a dragon and daffodil design. The daffodil is the flower symbol of Wales. The dragon is for protector, and it is also a symbol of Wales. My husband chose its design because he is from Wales, and he wanted to protect me.

When I saw it for the first time, I thought it was just an ordinary spoon. I was surprised to know its meaning. I was so touched and so glad, and I fell in love with my husband even more. In Wales, many shops sell lovespoons today. A lovespoon is not for use. It is only for decoration.

- *symbol 象徴 *daffodil スイセン(花の名前)
- *protector 守る事 *Wales ウェールズ地方 *ordinary 普通の *decoration 飾り

《 第1時における英作文活動 》 *たくさんの紹介文を書くことを目的として指導する。

あなたの宝物を紹介しよう

○私の宝物は () です。

My treasure(s) is (are) () .

それはどんなもの? ・ () .

○ () さんが私にくれました。

() gave me (this / these) .

もらったときの気持ちは? ・ () .

○さらに紹介すると…

・ () .

【使える英文(例)】

- I won the game with it.
- It gave me good memories.

《 生徒の作品 》

宝物紹介をしよう
~コミュニケーションテスト用~
Class() Name()

☆ あなたの宝物について書こう。



私の宝物は ~です
My treasure (is) (are) a necklace .
It has a key shape .
My grandmother gave me this .
I was very glad to have it .
She bought it for me when my grand-
parents, my family and I visited Mashiko
together .

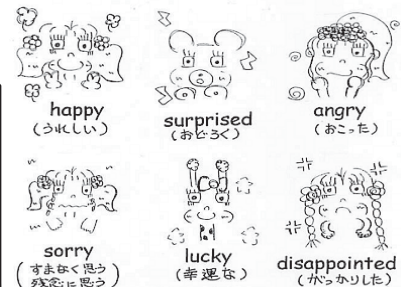
【使える表現集】

☆様子や状態を表すもの☆



【使える表現集】

☆気持ちを表すもの☆



活動が進まない生徒に対しては、教師が「形やデザインは?」「どのような機会にももらったか?」などのような問いかけをして促す。

事例2 ICTを使って、話したくなる・書きたくなる表現活動

1 ねらい

必要な場で瞬時に教材を提示できるICTの利点を生かし、コミュニケーション能力の基礎となる文法事項や言語材料についての知識や理解を深め、外国語表現の能力を向上させることをねらいとする。

2 ねらいを実現するための手立て・工夫等

(1) ICTの活用

授業展開の全てに活用するのではなく、効果が期待できそうな場面（文法事項の指導、単語練習、教科書の内容提示等）に絞り込んで活用する。ICTを活用すると、絵・写真等の静止画やアニメーション等の動画で、ポイントとなる学習内容を何度も繰り返して提示し、活用することができる。また、注目させたい教材を拡大・縮小させたり、文字の色付け等を行ったりして、視覚に訴えることにより、生徒の集中力を持続させ、意欲を高めることにもつながる。さらに、理解を促進するという面においても効果が期待できる。

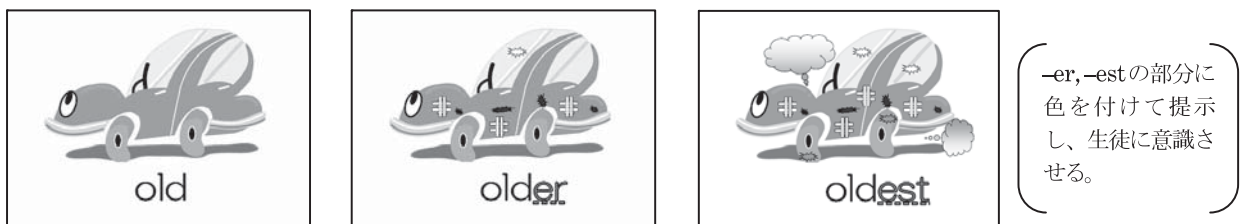
ア 単語の発音や綴りの確認をするだけでなく、ICTの活用により言葉の意味の推測を促す。

【単語練習】では 音声と文字による指導だけでなく、アニメーションの効果から日本語の意味を考えさせることができる。



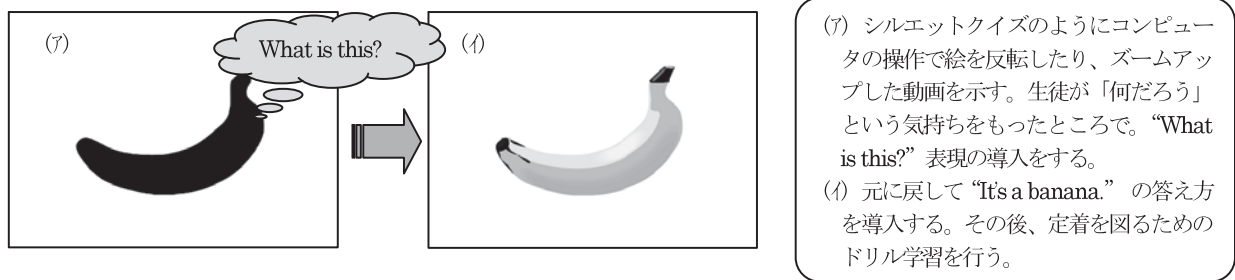
イ 動詞や形容詞・副詞の語形変化を視覚的に理解させ、反復練習を行う。

【反復練習】では 文字のどの部分が変化したのかを、色付けして意識させ、繰り返して指導ができる。

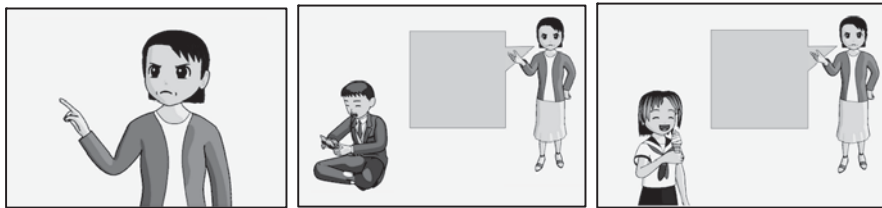


ウ 静止画や動画を提示し、生徒の気持ちがあ動いたところで、ポイントである言語材料を導入する。また、ドリル学習や応用学習へと発展させる。

【文法の導入】では これまでに紙ベースで作成した教材も手軽に作成でき、何度も練習に取り組みさせることができる。



【さらにドリル学習と応用】 場面に即した表現活動を瞬時に行うことができる。



「日頃から親に言われるひとは？」を考えさせ、命令文を導入し、その後、ドリル学習を行う。

【教科書を生かした音読学習】 では 教科書の音読練習をさらに深めるために、既習事項を活用した活動に取り組ませることができる。

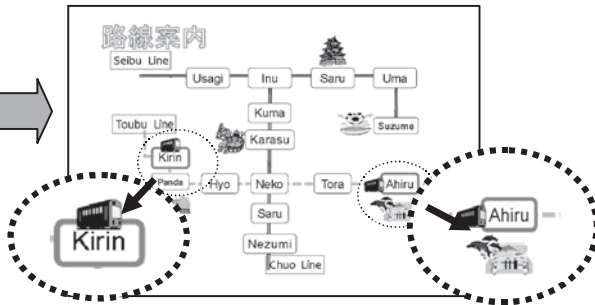
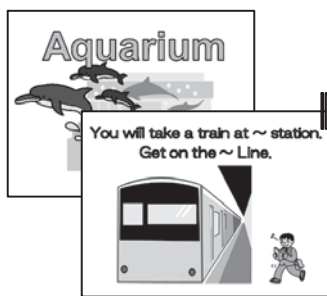
(ア) A: That's Ichiro .
B: Oh, I know the name. Do you like baseball ?
A: No. But my friend loves it .

(イ) A: That's 人名・場所 .
B: Oh, I know the name. Do you like 関連する言葉 ?
A: No. But ※人名 loves it .

(ア) この学習でのメリットは、英語に特有の発音 (f, v, r)、音のつながり (リンキング) 等を画面上で色分けすることで、生徒に意識させることができる点である。また、顔が上がるので表情やアイコンタクト等の確認が行える。
(イ) その後、本文の一部を生徒に考えさせる活動につなげていくことができる。
※文字の大きさや文字量については、生徒にとって見やすいように工夫する必要がある。

エ 言語の使用場面を映像で提示することにより、「こんなことを言ってみよう」という意欲を高め、さらに表現力を豊かにさせることができる。

【既習事項を生かした応用編 (路線案内)】 文字に頼ることなく、視覚的な情報から話の内容を聞き手に理解させやすい。



場所の名前や路線案内に必要な表現練習を行う。その後、実際に行きたい場所までの行き方を質問をする。慣れてきたら、その応用として、生徒同士で路線案内の対話を行う。

オ 生徒が外国に行った経験を生かし、写真等を用いて臨場感あふれるプレゼンテーションをすることができる。

【既習事項を生かした応用編 (外国の案内)】



帰国生徒や長期休業中に姉妹都市に行った生徒等が、授業や集会等で自分の体験談を英語で紹介する。その際に聞き手の補助としてICTを活用すると、異文化への関心を高める効果も期待できる。

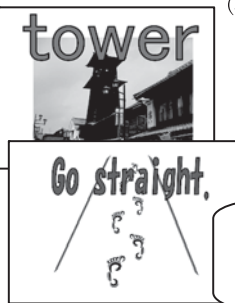
(2) 「話すこと」の言語活動におけるICTの活用

日頃から友達や先生、ALTと行っている言語活動を身近なものとしてとらえさせ、適切な表現を自ら考えさせ、言語活動の充実を図る。

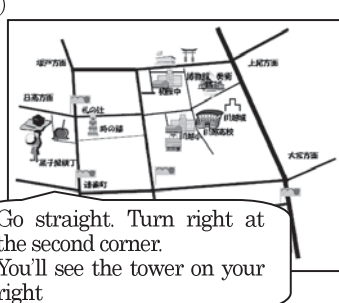
これまでの学習の成果を生かし、他の情報も加えながら表現させる。

【既習事項を生かした応用編 (道案内)】

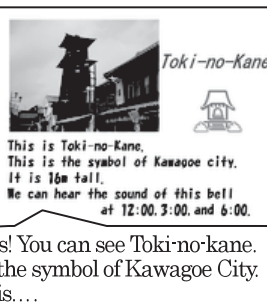
(ア)



(イ)



(ウ)



(ア) 場所の名前や表現練習を行う。
(イ) その後、実際に行きたい場所について道案内をする表現活動を行う。
(ウ) 応用として、生徒自身がたどり着いた場所をさらに詳しく紹介する。

(3) 事前の準備

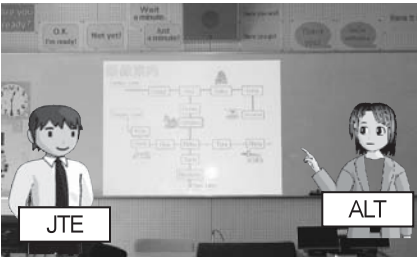


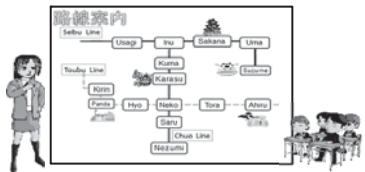
使用環境としては、コンピュータにプレゼンテーションソフトがインストールされていることが条件となる。また、教材として使用する素材は、身近にあるものを写真や動画として記録したもの、音声を取めたもの、生徒の表情、動きを表すイラスト等が利用できる。しかし、素材集には著作権の問題があるため、著作権がフリーなものを活用する等の配慮が必要である。これまで多くの方がアイデアを駆使して紙で作成したもの、OHP用に作成したもの等をリメイクし、ICTを活用すればさらに効果的な教材が作成できる。

3 ICTを使った事例

(1) 評価の観点・評価規準等 (※P149の【既習事項を生かした応用編(路線案内)】から)

評価の観点	内容のまとまりと本課(単元等)の評価規準		評価方法
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	S	①間違えることを恐れず、自分の行きたいところへ案内する表現を使って話している。	活動の観察
イ 外国語表現の能力	S	①状況に応じて適切な表現を活用し、路線案内をすることができる。	後日、ALTとインタビューテスト
ウ 外国語理解の能力	L	①自然なスピードで話される路線案内の英文の大切な部分を正しく聞き取ることができる。	後日、ALTとインタビューテスト 後日、ペーパーテスト

(2) 指導と評価の展開例

過程	○学習活動《形態》◇学習内容	指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 Warm-up 本時の学習を理解する。 「外国の方に路線案内をしよう」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ALT: Excuse me. I want to go to see a baseball game. Please tell me the way to the baseball stadium. JTE: OK. The baseball stadium is near Karasu station. Here is Kirin station. You will take a train at Kirin station. Get on the Tobu Line. Change trains at Neko station. Get on the Chuo line. Karasu station is the first stop. You will walk for five more minutes. </div>	<ul style="list-style-type: none"> 元気に挨拶する。 活動の観察 JTEは、ALTが行う路線案内にしたがって、画面上を指し示すなどの補助的な支援を行う。 
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○路線案内に必要な単語について、意味の確認ができるイラストを活用し、日本語を紹介することなく理解する。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">Aquarium</div>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ALTが、自分の行きたい場所への路線案内をする。生徒はALTがどこに行きたいのかを答える。 ○路線案内に必要な表現についてドリル学習を行い、定着を図る。 ◇路線案内に関する表現 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> You will take a train at ~ station. Get on the ~ Line.  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○路線地図を見ながら、自分の行きたい場所への路線案内を練習する。 ○生徒はALTが行きたい場所を聞き、その場所までの路線案内をする。 ○生徒同士で路線案内を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語練習や路線案内の表現を指導  <ul style="list-style-type: none"> ・ALTの行きたい場所について生徒に答えさせる。 ・複数の場面を提示して生徒に路線案内をさせる。 <p>評価 間違えることを恐れず、自分の行きたいところへ案内する表現を使って話している。(ア-S-①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に生徒に対話させる。 ※スムーズに路線案内ができた生徒には、更に既習事項を用いてたどり着いた場所についての説明に取り組みさせる。
後 日	<ul style="list-style-type: none"> ○後日、ALTとインタビューテストを行う。 ◇路線案内に関する表現 	<p>評価 自然なスピードで話される路線案内の英文の大切な部分を正しく聞き取ることができる。(ウ-L-①)</p> <p>評価 状況に応じて適切な表現を活用し、路線案内をすることができる。(イ-S-①)</p>

事例3 小中連携のための事例 ～生徒にやる気をもたせる入門期の指導の工夫～

1 ねらい

(1) 小中連携の必要性

ア 第1学年における言語活動

「小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえ」て指導することを中学校学習指導要領に明示。

イ 指導計画の作成と内容の取扱い

「小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする」と規定。

ウ 小学校外国語活動と中学校外国語の「目標」の接点

小学校

中学校

言語や文化についての 体験的 理解
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の 素地 を養う

→ 言語や文化に対する理解
＝ 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
→ 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の 基礎 を養う

エ 小中連携の具体策

- ・情報交換（指導方法等についての検討会、小中合同研修の実施）
- ・交流（授業参観、中学校教員による小学校での授業、小学校教員による中学校での授業、児童生徒の交流等）
- ・小中が連携したカリキュラムの作成

新学習指導要領では、小学校外国語活動での「体験」を生かし、中学校の英語学習を通してコミュニケーション能力の基礎を養うことが求められている。中学校では中1の入門期の指導が特に重要になる。小学校で習ったことが中学校でも役に立つことを生徒が実感できるように、小学校の指導方法を取り入れるなど、系統性をもった指導の工夫改善が必要である。具体的には、小学校で体験した活動を取り入れたたり、小学校で使用した教材を活用することが考えられる。このような指導を通して、生徒たちに「小学校でやったことがある」という感覚をもたせ、入門期の不安を取り除き、学習意欲の向上へとつなげることができる。

2 中学校教員による小学校での授業の例

(1) 題材名 アルファベットで名前を書く

(2) 本時の学習

ア 本時の目標

- ・中学校の英語学習への期待感をもって、自分の名前をアルファベットで書こうとしている。
- ・将来つきたい職業について、尋ねたり答えたりする。

イ 本時の展開

過程	○学習活動 ◇学習内容	・指導上の留意点	○評価上の留意点
導入 15分	○ Greetings and Small Questions ◇ Q : What day of the week is it today ? What's the date today ? How's the weather today ? ○ Introduction ◇ Hello. My name is ~. I'm an English teacher. I like traveling very much. ○ Conversation ◇ A : What's your first name ? B : TOMOKO. A : How do you spell it ? B : T-O-M-O-K-O.	・ 指導上の留意点 ・ 小学校の HRT が本日の指導者を紹介する。 ・ 児童に分かりやすく、簡単な英語で紹介する。 ・ 例を示し、練習してから行う。	○ 児童の活動の観察 積極的に会話している。
展開 25分	○ Writing ◇ 名前を英語(ローマ字) で書かせる。 ○ Interview(例) ◇ A : What do you want to be ? B : I want to be a teacher. A : Please write your name here. B : Sure. A : Thank you very much. B : You're welcome.	・ 4線に気を付けて書いているかよく観察する。 ・ すべて大文字で書かれていてもよい。細かなミス(特に shi,chi などへボン式になると綴りが変わる場合やスペリングのミスなど)は個別に指導する。 ・ 例を示し、練習してから行う。 ・ 小学校の学級担任とよく連携をとり、直前の授業で扱った、児童が慣れ親しんでいる会話活動を行うようにする。 ・ 会話をする際にアイコンタクトを意識させる。	○ 児童の活動の観察 自分の名前をアルファベットで書こうとしている。
まとめ 10分	○ Consolidation ◇ 教師、児童が今日の授業の感想を発表する。	・ 教師が児童の頑張っていた点を評価し、児童に中学校での英語学習への期待感、やる気をもたせる。 ・ 元気よく挨拶させる。	

(3) 4月に行ったアンケートの例 (調査数 ○○人)

- ①あなたにとって、小学校の外国語活動は楽しかったですか。
とても楽しかった ○○人 楽しかった ○○人 あまり楽しくなかった ○人 楽しくなかった ○人
- ②小学校の外国語活動で楽しかったことは何ですか。(複数回答可) [上位3項目]
英語の歌を歌ったり、英語のゲームをすること ○○人 外国語活動の雰囲気が明るかったこと ○○人
身近なことを英語で言うことができたこと ○○人

- ③あなたは中学校入学前、中学校での英語学習が楽しみでしたか。
とても楽しみだった ○○人 **楽しみだった** ○○人 **あまり楽しみではなかった** ○人 **楽しみではなかった** ○人
- ④あなたは小学校の外国語活動が中学校の英語学習に役に立っていると感じますか。
とても役に立っている ○○人 **役に立っている** ○○人 **あまり役に立っていない** ○人 **役に立っていない** ○人

(4) 小学校外国語活動で扱う主な英語表現 (英語ノート1・英語ノート2に記載された題材・表現)

	題材	英語表現の例
英語 ノート1	自己紹介 名前 気分 数 好き嫌い 何が欲しいか これは何か 時間割 食事の注文	Nice to meet you. What's your name? My name is ~. How are you? I'm happy. How many? Five. Do you like ~? Yes, I do. / No, I don't. I like ~. I don't like ~. What do you want? ~, please. What's this? It's a ~. I study (教科名). What would you like? I'd like fruits.
英語 ノート2	アルファベット大文字・小文字 誕生日 できる・できない 道案内 行ってみたい国とその理由 一日の日課に関する表現と時刻 英語劇 将来の夢とその理由	What's this? A~Z What's this? a~z When is your birthday? My birthday is ~. Can you swim? Yes, I can. / No, I can't. I can swim. / I can't swim. Where is ~? Go straight. Turn right / left. Stop. I want to go to Italy. I want to eat pizza. Let's go. What time do you ~? At 7:00. I get up at 6:00. I go to bed at 10:00. Please help me. What's the matter? What do you want to be? I want to be a ~. I want to ~.



(5) 「英語基本単語・会話表現リスト」の作成

中学校1年生の英語学習を始める際に、小学校の外国語活動で学習した単語や会話表現を「英語基本単語・会話表現リスト」としてまとめ、音声だけでなく、音声と文字が結び付くように工夫する。今後は、小学校の教員にもこのリストを配布し、小中で同じリストを使用することにより、小中連携がより効果的なものになることが期待できる。

英語基本単語・会話表現リストの例

1 基本単語

(1) 月

January 1月 February 2月 March 3月 April 4月 May 5月 June 6月 July 7月 August 8月 September 9月 October 10月
November 11月 December 12月

(2) 曜日

Sunday 日曜日 Monday 月曜日 Tuesday 火曜日 Wednesday 水曜日 Thursday 木曜日 Friday 金曜日 Saturday 土曜日

(3) 数字

one 1 two 2 three 3 four 4 five 5 six 6 seven 7 eight 8 nine 9 ten 10 eleven 11 twelve 12 thirteen 13 fourteen 14
fifteen 15 sixteen 16 seventeen 17 eighteen 18 nineteen 19 twenty 20 twenty-one 21 twenty-two 22 twenty-three 23 twenty-four 24
twenty-five 25 twenty-six 26 twenty-seven 27 twenty-eight 28 twenty-nine 29 thirty 30 forty 40 fifty 50 sixty 60 seventy 70 eighty 80
ninety 90 one hundred 100

2 会話表現

(1) A: What day is it today? 今日は何曜日ですか。 B: It's Monday. 月曜日です。	(2) A: What is the date today? 今日は何月何日ですか。 B: It's April 1st. 4月1日です。
(3) A: How is the weather today? 今日の天気は何ですか。 B: It's sunny. 晴れです。	(4) A: What time is it now? 今、何時ですか。 B: It's two ten. 2時10分です。
(5) A: How old are you? あなたは何歳ですか。 B: I'm twelve years old. 私は12歳です。	(6) A: What's your phone number? 電話番号は何番ですか。 B: It's 123-4567. 123-4567です。
(7) A: When is your birthday? あなたの誕生日はいつですか。 B: It's May 2nd. 5月2日です。	(8) A: How many cards do you have? あなたはカードを何枚持っていますか。 B: About ten. だいたい10枚です。

3 小中連携を意識した中学校での入門期の授業について

(1) ねらい

小学校での外国語活動で育まれた素地を中学校の英語学習でさらに伸ばすためには、入門期の指導が特に重要となる。小学校で学習した内容を繰り返し学習したり、小学校と同じ指導方法で教えたりすることによって、中学校での英語学習に対して、生徒にやる気と自信を付けさせ、また、中学校での英語学習に対する不安感を払拭することをねらいとする。

(2) 題材名 英語で数字を言ってみよう

(3) 指導計画

時間	主な目標	主な学習活動
1	日本語として使われている英語を、英語らしく発音する。	キーワードゲーム等
2	積極的に英語で挨拶をする。Classroom Englishを聞き、理解している。	Classroom Englishの練習
3	英語での数の言い方を知り、数の言い方を理解できる。	インタビュー活動
本時	英語で言われた数字を理解し、英語らしく発音する。	
4	アルファベットを正しく発音し、書く。	アルファベットの練習

(4) 評価の観点・評価規準等

評価の観点	内容のまとまりと本課（単元等）の評価規準		評価方法等
ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	S	①間違ふことを恐れず、英語で積極的に質問に答えている。	活動の観察
	L	②話された英語に従い、積極的に行動している。	活動の観察
エ 言語についての知識・理解	L	①数字の発音に関する知識を身に付けている。	後日インタビューテスト

(5) ねらいを実現するための手立て・工夫等





中学校に入学した生徒に英語学習に対して「やる気」と「自信」をもたせるためには、小学校で学習したことを楽しみながら再度学習させることが効果的である。小学校と同じ指導方法、指導内容を取り入れたり、同じ教材を使用したりしながら、生徒の記憶を確かなものにしていき、小学校で学習したことが中学校で生かされているという感覚をもたせる。

(6) 本時の学習

ア 本時の目標

- 英語での数の言い方を知り、ゲームなどの活動を通して、数の言い方を理解する。
- 小学校で学習したことの内容を中学校で繰り返し学習することにより、生徒に英語学習へのやる気と自信をもたせる。

イ 指導と評価の展開

過程	○学習活動 ◇学習内容	・指導上の留意点 ※資料	○評価上の留意点 (評価規準との関連)
導入 15分	○ Greetings ○ Sing a song ○ Introduction ◇ JTE : Let's study how to say "numbers". ALT : (順番に one ~ ten の数のカードを提示しながら) One S : One ALT : Two S : Two ALT : Ten S : Ten ALT : (ランダムに提示しながら) S : Three ALT : Good ! Three	・元気に挨拶させる。 ・ALTが数のフラッシュカードを使い、発音練習する。 ※数のフラッシュカード   ・正しく発音できるように、繰り返し指導する。 ・数字と絵カードは2組用意しておく。1組は黒板に貼り、もう1組はALTが提示する。	○生徒の活動の観察 間違ふことを恐れず楽しんで、英語で数を言っている。 (ア-S-①)
展開 25分	○ Activity (英語で数を数える) ◇ ALT : (絵カードを提示して、そこに描かれているものの数を数える) How many ? JTE : Two. How many ? S : Four. ○ Conversation (1 by 1) ◇ ALT : (絵カードを見せながら) How many ? S : Seven. ALT : Very good ! ○ Game (Let's make groups.) ◇ ALT が数を発音し、その数の人数でグループを作る。 JTE : Let's make groups ! How many students ? ALT : Six. S : (グループを作る) ALT : Good job !	・初めに JTE と ALT で会話形式の手本を示す。 ※絵カード   ・生徒が「いくつあるかな。」と興味・関心をもって参加できるように、一瞬見せてカードをふせる等、提示方法を工夫する。 ・ALT が1人ずつ質問する。 ・黒板に数字と絵を対応させて提示し、絵カードをALTが持って、質問する。 ・聞き取ることができないときは繰り返し発音する。 ・クラス的人数が割りきれぬ数を発音する。 ・積極的に取り組んでいる生徒を意識的に褒める。	○生徒の活動の観察 積極的に活動に取り組んでいる。 (ア-L-②)
まとめ 10分	○ Consolidation ◇ 教師、生徒が今日の授業の感想を発表する。	・よかった点、頑張っていた点を伝え、生徒に今後の英語学習に対して自信をもたせる。 ・元気に挨拶させる。	

4 まとめ ～小中連携を効果的に進めるために～

(1) 生徒が入学する前に知っておくとよいことについて (小学校からの情報収集)

- 英語が苦手な生徒について、「なぜ苦手と感じているか」の原因と思われること。
- 使用したClassroom English
- 小学校の授業で扱った単元や活動と扱っていない単元や活動等

(2) 日常の指導について

小学校、中学校で次のようなことを継続して指導するよう、指導方法の連携を図る。

例①授業中のインタビュー活動で相手が何と言っているか分からない時

- 繰り返し言ってみる、Pardon? と聞き返す、ジェスチャーをするなど、コミュニケーションを継続しようという努力を評価する。

例②インタビュー活動で気を付けること

- アイコンタクトや挨拶をきちんとさせるため、メモは会話が終わってから取るように指導する。

例③英語の雰囲気づくりに役立つこと

- 英語の歌の活用。(授業が始まる前から流して、生徒の興味や関心を高める。)
- 授業の導入で小学校で扱ったチャンツや歌を活用する。小学校で人気のあった歌やチャンツについて、情報収集しておくとい。

事例4 効果的な語彙指導の事例～使える単語はこう増やす！～

1 ねらい

平成24年度から全面実施される中学校学習指導要領では、語彙指導に関して、扱われる単語数が「900語程度まで」から「1200語程度」になる。そこで生徒が効果的に単語や語句を身に付けられる指導事例を示す。生徒自身が単語を「どの程度覚えているか」「どれくらい練習すれば覚えらるか」等、客観的に理解できるよう可視化することで、目標を立て易くし、自主的・自発的な学習を促すことができる。また、実際に「語彙力が向上した」という実感を得られれば、さらに学習意欲を向上させることができる。

2 指導計画

日常の授業時間の最初の5～10分。

- 第1時…新出単語の導入 (一覧・単語練習プリントの配布、発音練習)
- 第2時…単語テストA 1回目 (英語→日本語 前半、発音練習) …*図1左
- 第3時…単語テストA 2回目 (英語→日本語 後半、発音練習)
- 第4時…単語テストB 1回目 (日本語→英語 前半、発音練習) …*図1右
- 第5時…単語テストB 2回目 (日本語→英語 後半、発音練習)
- 定期テスト…書く力を問う問題
- 長期休業明け…休み明けテスト (前学期に学習した問題「単語テストB全て」+「自分問題」)

《語彙指導の流れ》

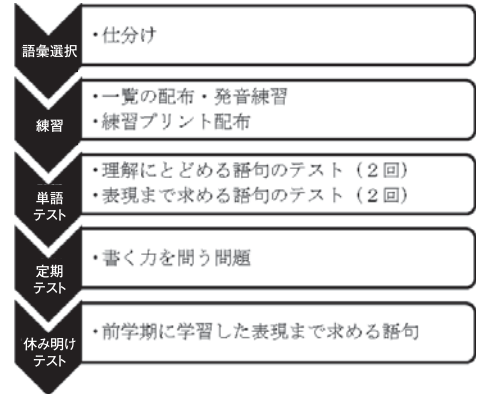


図1 単語テスト用紙 (左側が単語テストA 1回目、右側が単語テストB 1回目の例。いずれも実寸はA4縦)

Lesson 7A (1回目 1~11) 2回目 12~21)

Lesson 7B (1回目 1~6) 2回目 7~11)

単語テストA 1回目の評価対象の範囲

次回A2回目の評価対象の範囲。チャレンジ課題。

単語テストB 1回目の評価対象の範囲

次回B2回目の評価対象の範囲。チャレンジ課題。

理解にとどめる語句。チャレンジ課題。

語句から文へ。自己表現になげられるように、さらに時間のある生徒が挑戦する課題。

《ハリエーション》穴埋めにしたがり、テーマを決めたりしてもよい。

上の語を使って文を作ってみよう！

Name _____ No. _____ Class2- _____

Score /

3 評価の観点・評価規準等

評価の観点		内容のまとまりと本課（単元等）の評価規準	評価方法
言語についての知識・理解	W	① 語句に関する知識を身に付けている。	単語テスト
外国語表現の能力 (書くこと)	W	① 語句や表現の知識を活用して正しい英文を書くことができる。 ② 単語テストで覚えた英語を用いて英文を書くことができる。	定期テスト (書く力を問う問題)

4 ねらいを実現させるための手立て・工夫等

(1) 指導語彙の選択

中学校で指導すべき語は1200語程度である。しかし、全ての生徒が学習した直後に、その単語の綴りを書いたり、その単語を活用して英文で表現するところまで定着させたりすることは困難である。そこで単語テストは単元ごとに行う。教師が「(固有名詞など) 無理には覚えなくてもよい語句」「理解にとどめる語句」「表現まで求める語句」に仕分けし、単元ごとに提示する「語句一覧プリント」で生徒に明示する(*図2)。仕分けの基準として、教科書の付録にある単語リストで「太字で書かれている語」や「*がついている語」以外を「理解にとどめる語句」の目安とする方法もある。

図2 語句一覧プリント(実寸はA4縦)

Lesson 7		太枠内は書けるようにしよう		
	理解度	日本語	英語	本文
1	□□□□	心配する	worry	Don't worry.
2	□□□□	～へようこそ	Welcome to ~.	Welcome to New York.
3	□□□□	おじ	uncle	This is my <i>uncle</i> , Tom.
4	□□□□	海	sea	Let's go to the <i>sea</i> .
5	□□□□	再び、もう一度	again	See you <i>again</i> .
~~~~~				
17	□□□□	飛行機	plane	This is my first trip on a <i>plane</i> .
18	□□□□	そうでもありません	not really	<i>Not really.</i>
19	□□□□	旅	trip	This is my first <i>trip</i> on a plane.
20	□□□□	深い	deep	Take a <i>deep</i> breath and relax.
21	□□□□	息、呼吸	breath	Take a deep <i>breath</i> and relax.

「英語」欄は生徒が書く書体に近い **Comic Sans MS** 等にするとよい。

本文での扱いを例文として表示。該当語句はイタリック体で。

「表現まで求める語句」は太枠で表示。

「理解にとどめる語句」は細枠で表示。

折りたたみ方を変えることで様々な理解度を自己診断できる！

理解度	日本語	本文
1 □□□□	心配する	Don't worry.
2 □□□□	～へようこそ	Welcome to New York.
3 □□□□	おじ	This is my <i>uncle</i> , Tom.
4 □□□□	海	Let's go to the <i>sea</i> .
5 □□□□	再び、もう一度	See you <i>again</i> .
~~~~~		
17 □□□□	飛行機	This is my first trip on a <i>plane</i> .
18 □□□□	そうでもありません	<i>Not really.</i>
19 □□□□	旅	This is my first <i>trip</i> on a plane.
20 □□□□	深い	Take a <i>deep</i> breath and relax.
21 □□□□	息、呼吸	Take a deep <i>breath</i> and relax.

理解度	英語	本文
1 ■□□□	worry	Don't worry.
2 ■□□□	Welcome to ~.	Welcome to New York.
3 ■□□□	uncle	This is my <i>uncle</i> , Tom.
4 ■□□□	sea	Let's go to the <i>sea</i> .
5 ■□□□	again	See you <i>again</i> .
~~~~~		
17 ■□□□	plane	This is my first trip on a <i>plane</i> .
18 ■□□□	not really	<i>Not really.</i>
19 ■□□□	trip	This is my first <i>trip</i> on a plane.
20 ■□□□	deep	Take a <i>deep</i> breath and relax.
21 ■□□□	breath	Take a deep <i>breath</i> and relax.

以下のように段階的に塗りつぶしていき、**理解度を可視化**。

① ■□□□	日本語欄に該当する語句を本文欄から見付けられた。	「心配する」+「Don't worry.」→「worry」
② ■■□□	英語欄と本文欄を見て日本語にできた。	「worry」+「Don't worry.」→「心配する」
③ ■■■□	英語欄だけを見て日本語にすることができた。	「worry」→「心配する」
④ ■■■■	日本語欄だけを見て英語の綴りが書けた。	「心配する」→「worry」

#### (2) 繰り返しの工夫

「理解にとどめる語句」「表現まで求める語句」の両方を、それぞれ2回ずつに分けてテストする。ただし、全4回とも全ての語句を出題し、採点対象を替えていく(*図1)。また、定期テストの「書く力を問う問題」では、既習語と「表現まで求める語句」に指定した語句だけで解答できる問題を出題する。さらに、長期休業明けテストでは前学期に出題された「表現まで求める語句」を改めて出題する。

(3) 個に応じた指導

語句を覚えるのが得意な生徒には採点対象範囲以外（「理解にとどめる語句」を含む）も解答させる（*図1）。また、生徒によっては「理解にとどめる語句」の中に書けるようになりたい語句もあるので、そのような語句は積極的に表現できるようにさせる。（例：バレーボール部の生徒にとっての‘volleyball’など。）語句を覚えるのが苦手な生徒のために、長期休業明けテストでは最後の数問は「自分問題」を入れる。つまり、生徒は前学期の出題範囲から自分が選択した語句を自分で出題し、自分で答える。このことにより苦手意識をもっている生徒も、覚えられそうな語句から取り組もうと努力する姿が見られる。

(4) 学び方の指導

英語を書くことは中学校から学習する内容であり、そのための「学び方の指導」も重要である。

《必要な分だけ書かせる》

生徒は語句を覚える際、漢字の書き取りで慣れていることもあり「書いて覚える」方略をよく使うが、多くの場合、「全ての語句を同じ回数で」書いている。しかし、覚えるまでに書かなくてはならない回数は語句によって異なる。ゲーム・漫画などで知っている語句や外来語など生徒にとって親密度の高いものは比較的容易に記憶できる一方で、ローマ字にない文字を使う語句や簡単なフォニックスのルールから外れている語句などはすぐには覚えにくいからである。そこで、覚えたかどうかを可視化するために、単語練習プリントには「自分テスト」の欄を設け、練習後に右端の「自分テスト」と「日本語」の欄だけが見えるように折りたたんで、いわゆる模擬テストを行えるようにする（*図3）。不正解の語句はノートに書いてさらに練習し、今度は「日本語」欄だけを裏側に折り返して、裏面を活用して模擬テストの再試験を行う。その際、先ほど正解したものも含め、全て解答すると、さらに定着しやすくなる。

《「発音」欄を設ける》

英単語の綴りと日本語の意味を結び付けて記憶する際、英語の音声（発音）を介して結び付けることが重要である。綴りだけを記憶したとしても、発話の場面で必要な時に再生できないからである。ただし、英語の苦手な生徒にとっては、日本語の意味からはもちろん英語の文字からの音声化も難しい。そこで自分で音声化することが困難な生徒に対する手立てとして、英語の「発音」欄を設け、およその音を再生できるようにサポートするのも一つの方法である（*図3）。基本は空欄にしておき、生徒に「自分が聞こえた音」をもとにカタカナ等で記入させる（例：ダウン、チャッカレィ、ふァイン）。その際、アクセントの場所が分かるように留意する必要がある。ほとんどの中学生向けの学習辞書にはカタカナによる発音表記があるので参考になる。また、いつまでもカタカナ等に頼らない指導をしていく配慮も大切である。

図3 単語練習プリント（実寸はA4横）

	日本語	発音	英語	練習	自分テスト	日本語
1	～の下へ		down			～の下へ
2	チョコレート		chocolate			チョコレート
3	元気な		fine			元気な

5 指導と評価の展開例（単語テストの場合）

過程	○学習活動	指導上の留意点	評価上の留意点
導入 (7～10分)	○単語テスト ・配布 ・実施(3～4分) ・生徒相互の採点 ・回収 ・発音練習	裏のまま。筆記具は持たないで待つ。 速い生徒が単元全範囲解ける程度の時間。 必ず交換させる。 一覧表を見ながらその日の範囲の単語について発音練習。	(エーW-①)  試験範囲のみが採点対象。それ以外は自己採点させる。

※単語テストは授業の最初に行い、かつ授業時間内には単語テスト用の練習時間は確保しないことで、生徒によっては休み時間から単語テストの勉強に取り組むようになる。



**事例5 教科書を生かす ～ 活用の工夫で教科書が「生きて」くる！～**

**1 ねらい**

「基礎・基本」のエッセンスともいえる教科書を扱う時、発問を工夫したり、繰り返し学習を意図的に組み込んだ授業をデザインしたりすることで生徒の自発的な活動を促し、家庭学習等の際でも、生徒が教科書を活用しながら自主的に学習に取り組めるようになることを目指す。

**①対話による導入**

生徒の既習事項である文法を用いて新出事項や本文の内容を導入する。

T: Last year I visited Kagoshima during summer vacation.  
Where did you visit during summer vacation last year?  
S: I visited Hokkaido. I had a good time.  
T: That's great. I am going to visit there during this summer vacation.  
等

**②音声指導**

リンキング (音のつながり) やリダクション (音の脱落)、イントネーション (抑揚) について本文を使って考えさせる。

have a 「リンキング (音のつながり)」

can't wait good summer 「リダクション (音の脱落)」

Do you have any plans for your summer vacation? ↑ (上げ調子)  
What are you going to do there? ↓ (下げ調子)

**③単語の補強**

同じ綴りや発音  
soon, noon, moon,  
meat, leaf  
カテゴリーごと  
week, day, month,  
year  
grandfather …  
grandmother 等

コロケーション  
(連語)  
plan … cancel  
one's plan  
hope … hope for  
the future  
stay … stay home  
alone 等  
以上のようなことを意識することで語彙を広げる。

Masao: The summer vacation will be starting soon.

Do you have any plans for your summer vacation?

Karen: Yes. I'm going to visit Canada.

Masao: How long are you going to stay?

Karen: For two weeks.

Masao: What are you going to do there?

Karen: My grandfather's going to take me to Niagara Falls. I can't wait.

Masao: That's wonderful. I hope you'll have a good summer vacation.

Karen: Thank you. You too.

基本文 I am going to go shopping tomorrow.  
Are you going to go shopping tomorrow?  
Yes, I am. / No, I'm not.

**New Words**

- soon      week(s)      too
- plan(s)    grandfather    stay      hope
- Canada カナダ      Niagara Falls ナイアガラの滝

**④音読練習**

「暗唱」「意味を伝える音読」という目標に向けて様々な手法を用いて段階を踏まえて指導する。「いちご読み」、Listen and Repeat、Read and Look up、Shadowing、クローズ音読、鉛筆おき音読等 (詳細は次ページ)

PROGRAM 5 - 1  
日本語に相当する表現のかたまり (チャンク) を本文中から抜き出し、書き入れましょう。

日本語訳 (語数)	Name
あなたは何か知っていますか「4語」	チャンク
海外ボランティアの仕事について「4語」	
私たちは使用済み切手を集めています。「4語」	
南アジアにいるダイスケのおじさんのために「6語」	
彼はそこでボランティアの医師をしています。「6語」	
どのようなことか、理解できません。「3語」	
おじは僕に使用済み切手を集めてくれるように頼んだのです「7語」	
彼はそれ (使用済み切手) を売ることができる「4語」	
薬を買うために「3語」	
私たちはそれ (使用済み切手) を集めています「3語」	
クラスの企画として「4語」	
とても感動しました「3語」	
ここに報告書があります「3語」	
もう一人別の海外ボランティアからの「4語」	

書き終わったら、グループの中で役割分担をして練習をしましょう。  
A: 適当な順番で日本語を言う。  
B: なにも見ないで、言われた日本語を正しい発音で英語に直す。

チャンク (意味のある言葉のまとまり) で語彙、語順、修飾の仕方を身に付ける。

**⑤語彙指導**

教科書本文の内容に関する質問づくり (Does Karen have any plans for her summer vacation?) や登場人物のせりふの並べかえ (対話による導入、新出単語の練習の後、教科書を開けないで会話の流れを想像しながら、教師が用意した英文を個人またはグループで並べかえをする) など、実態を踏まえた活動を行い、内容理解につなげる。

**⑥内容理解**

## 2 指導計画

第2学年〇学期 ○○○

時	主な目標	主な学習活動
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい語順や語法を用いて文を構成する。</li> <li>本文のあらすじや大切な部分を読み取り、場面に応じた質問や応答をする。</li> </ul>	①オーラルインタラクション（本文への導入） ②新出単語の練習 ③チャンクで本文を学習 ④内容理解
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読する。</li> <li>場面や状況にふさわしい表現を用いて話したり書いたりする。</li> </ul>	⑤音読に向けた準備（本文の音声指導） ⑥本文の音読 ⑦be going to~の理解と運用 ⑧まとめ（話す活動・書く活動）

## 3 評価の観点・評価規準等

評価の観点	内容のまとまりと本課（単元等）の評価規準		評価方法等
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	L	①聞いた言葉に対して、簡単な言葉や動作で反応している。	活動の観察
	S	②間違うことを恐れず、積極的に自分の考えを話している。	活動の観察
イ 外国語表現の能力	S	①場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 ②尋ねられたことに対して適切に応答することができる。	活動の観察
	R	③正しい強勢、イントネーション、区切りで音読することができる。	後日音読テスト
	W	④場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。	作品の分析
ウ 外国語理解の能力	R	①あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。	Q & A
エ 言語や文化についての知識・理解	S	①正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。	活動の観察
	R	②基本的な強勢、イントネーション等の違いを理解している。	活動の観察

## 4 ねらいを実現するための手立て・工夫等

### (1) 学習活動の順序や形態

学習活動の順序に関しては、生徒の実態や教師のねらいに応じて、外国語を学ぶ上でより効果的になるよう系統性を考慮し、工夫する必要がある。学習の形態に関しては、学習の目的に応じて「個人」「グループ」「1対1」（教師⇄生徒）「ペア」（生徒⇄生徒）のように変化させることにより学習効果が上がると考えられる。それぞれの場面で、それぞれの形態の利点を上手く生かした指導をしていくことが大切である。

### (2) 音読について

音読は指導方法の一つであり、それ自体がゴールではないが、自己表現力の育成に向けた重要な橋渡しの役目を果たすことが期待できる。生徒の学習状況を確認しながら、様々な手法を用いることで飽きずに繰り返せるような工夫が必要である。

いちご読み	1語ずつ、モデルの音声をrepeatする。個々の発音を確認でき、初期の音読指導に向く活動。
Read and Look up	“Read”の合図で文を黙読後、“Look up”の指示で顔をあげ黙読した部分を音読する。
シャドーイング	音源または教師の音声に対し、後を追うようにして音読する。（文字を見ないで音を追いかける。）
クローズ音読	本文に空欄を設け、その空欄を埋めながら音読する。
鉛筆おき音読	教科書に数本の鉛筆を置いて、鉛筆の下になって見えない部分を補いながら音読する。

### (3) 内容理解について


内容理解に関しては、英文和訳など様々な方法が考えられるが、本文を活用し、既習の表現を使って生徒自身がQ & A、T or Fクイズを作ることにより、本文理解がより深まる。また、題材によっては、導入・新出単語の練習後、教科書を開く前に登場人物のせりふの並べかえをさせることも効果的である。

### (4) 過年度の教科書の活用について

過年度の教科書を使ってディクテーション、音読、暗唱に取り組むことで、既習事項の反復練習や定着を図る効果が期待でき、「(例) 1年生の教科書でeaの綴りでイーと発音する単語を探してみよう」という発音（文字）指導にも利用できる。

5 指導と評価の展開例 (第1時、第2時の指導)

*①～⑥の数字はP157の番号と対応しています。

過程	○学習活動《形態》◇学習内容	指導上の留意点	評価上の留意点
(第1時)			
展開	① ○オーラルインタラクション《個人》「夏の予定についての対話」 ◇T: Last year I visited Kagoshima during summer vacation. Where did you visit during summer vacation last year? S: I visited Tokyo. T: This year I am going to visit Canada during summer vacation. I don't know about Canada very much. Do you know?	・話をイメージしやすくするために、ピクチャーカードや映像等を使う。 	○活動の観察 聞いた言葉に対して簡単な言葉や動作で反応している。 (ア-1-①)
	③ ○新出単語の学習 (フラッシュカード) 《個人》 ◇soon・・・同じ"oo"の音がある単語を考える。例 noon, spoonなど week・・・day, month, year等、同じカテゴリーの単語を取り上げる。 grandfather・・・grandmother, father, mother等を取り上げる hope・・・マジック (フォニックスのルール) の仲間を考える。 例 nose, rose, home, poleなど plan・・・make a plan のようなコロケーションを考える。	・同じ綴りや同じ発音を起点にして、既習の単語を想起させる。 ・コロケーションを取り入れた語彙指導を行う。「計画を〇〇する」など。	○間違えることを恐れず積極的に自分の考えを話している。 (ア-S-②)
	⑤ ○チャンクで学習《個人・グループ》 1分間、本文を黙読した後、言葉のまとまり(チャンク)を教科書から抜き出し、ワークシートに記入する。その後、口頭で日本語から英語になおす練習を行いグループ・教師で成果を確認する。	・教科書からチャンクを抜き出す前に、内容を大まかにつかむために黙読する。	○正しい語順や語法を用いて文を構成する知識がある。 (エ-S-①)
	⑥ ○内容理解 Q&A、T or Fクイズを作成し、生徒間で対話をする。《個人・グループ》 ◇・Does Karen have any plans for her summer vacation? ・How long is Karen going to stay in Canada? (Q & A) ・Masao is going to visit Canada. (T or F)	・Q&A、T or Fクイズを教科書本文を利用して各自で作成する。正解、不正解は、基本的に生徒自身が判断するが、必要場合は教師がヒントを与えながら活動を行う。	○大切な部分などを読み取ることができる。 (登場人物の誰が何をするのかを意識して疑問文をつくる) (ウ-R-①)
(第2時)			
展開	② ○音読に向けた準備《グループ》 リンキング(音のつながり)、リダクション(音の脱落)など音読に向けた注意点をグループで話し合い、ボードに記入し全体で確認する。 ◇have a(音のつながり) can't wait(音の脱落) Do you have any plans for your summer vacation? ↑(上げ調子)		○基本的な強勢、イントネーション等の違いを理解している。 (エ-R-②)
	④ ○本文の音読《個人》 暗唱に向けた音読練習を行う。 〈例〉listen and repeat 2回→個人読み1~2分間(3~4回)→役割読み(交互読み) 2回→read&look up 1回(状況に応じて繰り返す)→役割読み(交互読み)教科書なし 2回→シャドーイング 2~3回	・本文の題材、生徒の達成状況によって、音読の方法を変えるなど工夫をする。	○正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。 (イ-R-③)
	○be going to ～の理解と運用《個人・グループ》 ・新出の文法事項をICTを利用し、映像と共に説明 ・教科書本文で再確認 ・インフォメーションギャップを利用した活動 「予定を合わせて、仲間と買い物に行こう！」 ◇A: ○○. Let's go shopping next Friday. B: OK. / Sorry, I'm going to ~ A: (仲間に予定がある場合) How about next △△?	・新出の文法事項について、教科書での用法を再確認すると共に、使用場面を想定した言語活動を行う。 	○場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができ、尋ねられたことに対して適切に応答することができる。 (イ-S①, ②)
	○まとめ(話す活動・書く活動)《個人》 ・ワークブック等を使って、学習したことを整理する。 ・来週1週間の自分の予定表を作り、仲間に伝える。 ◇〈例〉I am going to see a movie next Saturday. What are you going to do next Saturday?	・最後に新出の文法事項を使い、書く活動を行うことで学習したことの整理・定着・活用を目指す。	○場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。(自分の予定を、既習の動詞を使って書くことができる。) (イ-W-④)

外国語

## 事例6 伝えよう 日本文化! ～こんなとこいいね、日本!～

### 1 ねらい

実生活の中で、生徒が外国の人々と英語を用いてコミュニケーションを図る場面は多くはない。しかし課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力といった能力を育むためには、基礎的・基本的な知識や技能を習得した後で、それらを活用させる場面を実際に与える必要がある。

この実践では、自分たちが書いた日本文化に関する英作文を冊子にし、それをもとに外国の人々と英語でコミュニケーションを図る活動に発展させている。外国の人々に日本文化を紹介するために、生徒は習得した知識や技能を駆使し、なんとか困難を乗り越え、その結果、伝えたいことが相手に通じた喜びを味わうことができる。本事例のような体験を通して学習したことの有用性を実感させたい。

### 2 評価の観点・評価規準等

評価の観点	内容のまとめりと本課(単元等)の評価規準		評価方法
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	W S	① 辞書を活用するなどして書いている。 ② 聞き手の様子に応じながら話している。	活動の観察 スピーチ
イ 外国語表現の能力	S	① 日本の文化について、ふさわしい表現を用いて話すことができる。	パフォーマンステスト
ウ 外国語理解の能力	R	① まとまりのある英文を読んで、その内容を理解することができる。	後日ペーパーテスト
エ 言語や文化についての知識・理解	W W	① 受動態を用いた文の構造を理解している。 ② 受動態 (by～の場合) を用いた文の構造を理解している。	後日ペーパーテスト 後日ペーパーテスト

### 3 指導と評価の計画

主な言語材料：受動態 6時間扱い

時間	○学習活動・◇学習内容	単元の評価規準	評価方法
第1時	○受動態の文構造を理解する。 ○教科書本文(section 1)と簡単な活動を通して、受動態の使い方を理解する。 ◇本単元で身に付ける文の構造や大まかな内容 ◇受動態の文構造の理解	エーW-①	後日ペーパーテスト
第2時	○受動態(by～の場合)の文構造を理解する。 ○教科書本文(section 2)と簡単な活動を通して、受動態(by～の場合)の疑問文、否定文の使い方を理解する。 ◇受動態(by～の場合)の文構造の理解	エーW-②	後日ペーパーテスト
第3時	○受動態の含まれた数種類のまとまりのある英文を読んだり聞いたりして、その内容を正しく理解する。 ○英文中で使用されている受動態の表現を探す。 ◇受動態が含まれた英文の内容理解	ウーR-①	後日ペーパーテスト
第4時	○教科書本文(section 3)の日本の伝統文化を紹介する英文を読んで、分かりやすく伝える文章の組み立て方を理解する。 ○教科書や多読・多聴で用いたまとまりのある英文を参考にし、必要に応じて辞書を活用しながら英語で書く。 ◇相手に何かを紹介するときに、分かりやすく伝えられる文章の組み立て方の理解 日本文化を紹介する英作文	アーW-①	活動の観察
第5時	○文章を完成させ、その内容をグループやクラスの友達にスピーチで伝える。また友達のスピーチを聞き、その内容を理解する。 ◇英作文完成、その内容をスピーチで相手に伝える練習	アース-②	活動の観察
第6時	○自分の紹介したい日本文化について説明し、聞き手の質問に適切に応じる。 ◇日本の文化についての紹介	アース-② イース-①	スピーチ



後日	<p>&lt;ペーパーテスト&gt;</p> <p>★「～は…で使われている」「～は…で知られている」「～は…で作られた」「～は…に建てられた」といった場面を与えて、ふさわしい表現を用いて書く問題</p> <p>★有名な本の著者を本のタイトルを主語として紹介する英文を作る問題</p> <p>★ある外国の文化を紹介する英文を読んでその内容を理解する問題</p>	エーW-①	ペーパーテスト
		エーW-②	ペーパーテスト
		ウーR-①	ペーパーテスト
	<p>&lt;外国の人々とコミュニケーションを図る活動&gt;</p> <p>★修学旅行で京都・奈良を訪れる際に、日本文化を紹介する冊子を持参し、現地に出会った外国の方にその冊子の内容を説明し、プレゼントする。その際に冊子の内容をもとに、日本の文化を紹介しながら、コミュニケーションを図る。</p>		

#### 4 ねらいを実現するための手立て・工夫等

- まず生徒には、本単元で身に付けるべき言語材料が、自然な文脈の中で用いられている英文に触れさせる。具体的には、受動態の導入後、受動態を用いて書かれた日本文化に関する何種類かのまとまった英文（*資料1）を読んだり聞いたりさせて（インプット）、その内容や受動態の用法を理解させる。
- パフォーマンステストや実際に外国の人々に話しかける前に、ペアやグループで、十分に口頭練習の機会を与える。
- 修学旅行先の京都、奈良等で生徒が外国からの旅行者に出会う確率は、普段の生活よりもはるかに高い。生徒の作品を冊子にし、必要とする人（外国からの旅行者）に読んでもらうことによって、学習したことの有用性を実感させる。
- 話しかける時のマナー等についても指導しておく（Excuse me. Do you have time? のように話しかけ、時間がとれるか確認する等）。

#### 5 指導と評価の展開例（第3時間目 展開）

過程	○学習活動《形態》・◇学習内容	指導上の留意点	評価上の留意点
W-up			
展開	<p>○多読・多聴（インプット活動） 《個人》</p> <p>日本文化に関する英文『こんなとこいいね日本!（*資料1）』を読んだり聞いたりして、その内容に関する質問に答える。</p> <p><b>事前準備</b> 多読用に、日本文化に関するまとまりのある英文を数種類用意する。また多聴用に、用意した英文をあらかじめALTに読んでもらいCDに録音しておく。CDの再生機を10台程度用意し、生徒が個人で自由に使えるようにしておく。</p> <p>◇受動態</p>	<p>多読・多聴に用いる教材は、ALTに協力してもらうなどして複数用意できると、生徒の習熟度に対応できる。</p> <p>・自然な文脈の中で受動態が用いられている英文を用意する。</p>	<p>日本文化紹介!</p> <p>日本文化紹介!</p>
Step 1	<p>○生徒は用意された数種類の多読・多聴教材の中から、興味のあるものを選び読み始める / 聞き始める。</p> <p>《個人》</p>	<p>・手に取ったものから取り組むよう促す。</p> <p>・概要をとらえさせる。</p>	<p>・この場面での評価は形成的な評価とする。</p>
Step 2	<p>○決められた時間（15分程度）内でできるだけ多く読んだり聞いたりして、ワークシート（*資料2）の質問に答える。</p> <p>《個人》</p>	<p>・質問に答えることによって、内容理解が促進されるように工夫をする。</p>	<p>・評定に関わる評価は、後日ペーパーテストで読み取りに関する問題を出題し、その結果で判定する。(ウーR-①)</p>
Step 3	<p>○多読で用いた英文の一つに全体で取り組み、英文の中で受動態がどのように用いられていたか確認する（*資料3）。</p> <p>《一斉》</p>		
	<p>◇読んだ英文をもとに自己表現へ（アウトプット活動）</p> <p>Step 4 ○外国に紹介したい日本の文化について考える。</p> <p>○分かりやすく聞き手や読み手に伝えるための文章構成について知る。</p> <p>《個人》</p>	<p>・ブレインストーミングを行い、意見を引き出す。</p>	
	<p>◇次回以降の取組について確認する。</p> <p>《一斉》</p>	<p>・辞書を用意させる。</p>	<p>・ワークシートの回収</p>

# こんなとこいいね日本!



It is very interesting for me to ride the trains in Japan. The trains in my home city are very bad. They aren't used by many people. In Japanese cities sometimes the trains are *delayed, but usually they are very *reliable. For me this was a new *experience.

When I was a young student, I didn't have so much money. But I wanted to visit Kyoto. One of my friends said "You should use *the Seishun 18 ticket. You can only ride local trains, but the ticket is really cheap".



I left Tokyo Station around *midnight. Even at midnight, most of the seats were *occupied for a very long time! I was standing for about half-way. It was getting light outside. Finally I was so tired that I sat on the floor. I was *surrounded by business people going to work. Later I was *offered a seat. I was very happy. I learned that there were kind people *everywhere.

No. 1

delay: 遅らせる reliable: 信頼できる experience: 体験、経験 the Seishun 18 ticket: 青春18切符 (JRの割引切符) midnight: 夜中

occupy: 使用する surround: ~を囲む offer: 差し出す everywhere: どこにでも

159 words

## <資料2 「こんなとこいいね日本！」 ワークシート (抜粋) >

*こちらはプリントを読んで答える部分です。No. 1,2,4 はヘルムットが日本にきて、実際に感じたことです。No.3 はジェニーが感じたことです。それぞれ質問に答えなさい。

*少し読んでみて、わからなかったらどんどん変えてかまいません。

No. 1 [ T-F クイズです。内容に合っていたら T 間違っていたら F を( )に書き入れましょう。]

Q1: Helmut thinks that the trains in Japan are not good. ( )

Q2: When Helmut was a student, he went to Kyoto by train. ( )

*この話を読んで、受け身の表現で使われている過去分詞を2つ挙げましょう。

## <資料3 「日本文化紹介」 ワークシート >

### Let's Enjoy English Let's Enjoy English 伝えよう! 日本文化!!

※読んで! この話! 日本人って変? ☆☆☆☆☆

Step 1 話の内容を読み取れた人はきつとうなずけます。  
あなたも無意識にやってるかも。。

When I first came to Japan, I was very *surprised. People always *bow each other when they meet. In my country the only time I can remember bowing is in *church. In Japan it seemed that people bow all the time; when meeting, when saying goodbye, even when talking on the telephone!

At first I didn't know when to bow. Sometimes I forgot to bow. Only after I noticed the other person was bowing, I remembered to bow. In my country we are not taught to bow, but in Japan even young children are taught to bow. This is a big difference.

In *Germany people usually *shake hands as a greeting. In New Zealand, European people do not make gestures. But *Maori and Polynesian people sometimes *raise their eyebrows. This is a very cute way of saying hello. If you visit other countries, you'll know that there are many different ways of *greeting.

※受け身の表現が使われている部分(過去分詞形)に下線を引こう。

Q1 文中のI(私)が、日本に来て驚いたことは何ですか? A _____

Q2 ポリネシアの人々は、どんなあいさつをしますか? A _____

Step 2 次はみんなの番です。紹介したいと思う日本文化を日本語であげてみましょう。

Step 3 実際に英文にしてみます。その時に、必ず受け身の表現を用いてください。まず下の例文を読んで下さい。受け身の表現を用いた文に、下線を引きましょう。



Hello, everyone! I'm Toshie. Look at this. It is "FUROSHIKI". Have you ever used it? Today I'm going to tell you about this *furoshiki*.

*Furoshiki* is used in Japan. Do you know how to use it? It is used for wrapping. You can wrap any things like this....

And it is used as a bag. It has been used since Edo Era. You can see the people using *furoshiki* as a bag in "jidaigeki".

It is also used as a mantle. If you wear it, you can fly in the sky like *Super man!* But be careful! Please don't try to fly from a high building. Now I'll show you how to fly!

That's all, thank you!

Step 4 では、実際に書いてみましょう。10文又は、50語以上を目指しましょう。